

平成27年度 東京衛生学園専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人 後藤学園
東京衛生学園専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校では、関連企業・機関・施設の代表、卒業生代表、保護者代表から成る「学校関係者評価委員会」を組織し、平成27年度の自己点検・評価結果に基づく学校関係者評価を実施したので、次のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

<学校関係者評価委員>

- 北目茂 委員長（公益社団法人 東京都理学療法士協会 監事）
- 柴島英剛 副委員長（東洋医療系学科 同窓会 理事）
- 長谷川美枝子 委員（医療法人社団 青葉会 牧野記念病院 看護部長）
- 菊地貴彦 委員（大田区鍼灸師会 会長）
- 江良ヒデ子 委員（看護学科 同窓会 会長）
- 長谷川誠 委員（リハビリテーション学科 同窓会 厚生部 部長）
- 加藤一人 委員（保護者代表：PNF研究所株式会社 代表取締役）

<教職員>

- 後藤修司（学校長）
- 町田みち子（副校長）
- 光畑昇（企画調整局 第三者評価・広報担当副局長）
- 森島健（教務部長、リハビリテーション学科 学科長）
- 小林里美（看護学科二年課程 学科長）
- 波田康（東洋医療総合学科 学科長）
- 五十嵐万喜子（事務次長、学校関係者評価委員会事務局）
- 菅原之人（臨床教育専攻科 学科長、学校関係者評価委員会事務局）

2. 評価対象期間と委員会実施日時

<対象期間>

自：平成27年4月1日
至：平成28年3月31日

<委員会実施日時>

第1回：平成27年7月21日（火）18：00～20：00
第2回：平成27年12月2日（火）18：00～20：00
第3回：平成28年 3月1日（火）18：00～20：00

3. 実施方法、公表

平成27年度末に実施した自己点検・評価を学校関係者評価委員の皆様にお読みいただき、自己点検・評価結果の各基準に対するご意見と評価をとりまとめました。評価結果は、今後の本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

4. 平成27年度自己点検・自己評価に対する学校関係者評価

*評価基準 — 「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）」に準拠

*評価点数 — 4＝適切、3＝ほぼ適切、2＝やや不適切、1＝不適切

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 基準1 教育理念・目的・育成人材像 | 評価(平均) 3.6 |
|--------------------------|-------------------|

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 教育理念・目標は概ね達成されていると思われる。卒業生を見ていると概ね適切であり、理念や目的のもと適切に人材育成につながっている。
- 学校ホームページ等で視覚的に理解しやすくなっている。より一層の教職員への周知を期待する。
- 教員への周知については理念や目標を記載したクレドカードの利用や、各部署で標語などを掲示し朝礼で適宜確認するなど、視覚的なアピール方法も有効である。また、定期的に理念や目標を職員が理解しているかチェックするなど有効な方法なので、是非ご検討いただきたい。
- 各学科の医療職種における社会的ニーズを適宜把握しながら、柔軟な育成人材像を構築し適合性を図ってほしい。

| | |
|-----------------|-------------------|
| 基準2 学校運営 | 評価(平均) 3.3 |
|-----------------|-------------------|

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 概ね達成されていると思われる。また、課題を見据え改善策に向かって取り組んでほしい。
- 情報システムの具体的実施については、早期実現に向けて対応出来るよう望む。
- 人事・給与制度についてはしっかり整備していると思うが、現行の制度にとらわれず時代の変化に応じた対応を望む。

| | |
|-----------------|-------------------|
| 基準3 教育活動 | 評価(平均) 3.1 |
|-----------------|-------------------|

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 卒業生や学生を対象とした意見聴取はすぐにできるので調査の実施を望む。
- 教育課程編成委員会のカリキュラム反映や外部アンケートの実施に向け取り組んで頂きたい。
- 自己点検評価の課題（取り組むべき内容）が明確なので、次年度の改善方策の実施を期待する。
- 関係のある他の資格が取れば、余力のある学生はモチベーションアップにつながると思うので検討頂きたい。
- 卒業生へのアンケート結果から、3年制の専門学校出身者でも卒後の臨床現場で給与体系が同じであれば、3年制カリキュラムの優位性や当校の存在価値につながると思う。また、アンケート調査で当校卒業生が管理職に多く就いているようであれば、それも当校の売りにできると思うので是非検討頂きたい。

基準4 学修成果

評価(平均) 3.6

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 各学科でキャリア教育・就職支援の目標と年間計画を立てながら実施している。
- アンケート調査などによって研修会や学会で当校卒業生がどのように活躍しているか、発表数などを調べることによって、卒業生の社会的評価の一端が把握できるのではないかと。是非、今後の課題として検討頂きたい。
- 教育活動とも共通するが免許取得はもちろんのこと、大切なのは即戦力となりうるか、または学生が臨床現場で自信を持てるかが重要である。また、業界の発信するボランティア活動やイベント情報などは、校内掲示などで積極的に学生へ案内してほしい。こうした活動を含め、現場の意見等を教育課程編成委員会でカリキュラムに反映して頂ければと思う。
- 卒業生へ仕事についてのアンケートを実施することによって、教育現場で何が重要なのか把握できるので、次年度は卒業生アンケートを実施してほしい。
- 各学科の学修成果については課題が明確であり、取組むべき内容も明確なので次年度に期待できる。
- 資格取得率については全ての学科で全国平均を上回っているが、より一層の向上を図ってほしい。

基準5 学生支援

評価(平均) 3.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 自己点検評価にもあるが、退学率減少に向けての取組みをはじめ学習支援の努力をしていると思う。
- 臨床実習で学生が離脱してしまわないような支援体制を是非とも整備してほしい。カウンセリングルームの充実など、メンタル支援を中心として学生相談に関する体制を一層充実させて頂きたい。
- 最近ではストレス耐性の低い学生が少なくないので、学校では学習支援の意味でも「心」を育む取組みを是非とも実践してほしい。
- 地域や卒業生とのつながりが大変重要だと思う。卒業生への支援体制として、勉強会やイベントに在校生と一緒に参加出来るような企画があれば良いと思う（卒業生の新しい情報収集とスキルアップにつながる）。
- 学生相談の中で進路変更がその学生の将来を一番に考えた選択枝であれば、退学という結果も仕方ないと思われる。もちろん退学者の要因分析によって低減を図る努力も続けて頂きたい。
- 企業等で実施されているストレスチェックと対策を参考に、学生のストレス度を把握し対応できるような具体的取組みを検討して頂きたい。

基準6 教育環境

評価(平均) 3.9

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備している。また、学外実習や海外研修の実施体制を整備している。
- 防災に対する組織体制を整備し適切に運用している。また、災害時の保存食や水等も確保しており、津波の対策としても防災用具を施設の3階に設置しているなど、適切な取組みを実施している。

基準7 学生の募集と受け入れ**評価（平均） 3.9**

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組みながら、学生募集活動を適切に行っている。また、入学選考基準を明確化し適切に運用している。
- 入学パスポートを発行し、入学予定者に対して早期学校公開を実施するなど工夫している。
- 学納金も経費内容に対応し算定している。また、入学辞退者に対し授業料返還等、適正な取扱を行っている。
- 入学者の学力に応じたサポートを実施しているが、より一層の学習支援体制を整備し学習者の学力向上に取り組んでほしい。
- 2学科で若干の定員割れがあった。次年度に向け全学科100%を目標に取り組んで頂きたい。

基準8 財務**評価（平均） 3.0**

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 自己点検評価にもあるように、各学科や部署の予算計画や管理に関する運用上のルールを策定する必要がある等、改善策が明確にされているので今後に期待する。
- 各学科・各部署でコスト意識を持ちながら経費削減対策を適宜実施しているようなので、今後も続けてほしい。

基準9 法令等の遵守**評価（平均） 4.0**

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 法令や専修学校設置基準等を遵守し、学校が保有する個人情報保護に関しても対策を実施しながら、適正な学校運営を行っている。また、自己評価の実施体制を整備し評価結果の公表も行っている。
- 今年度から学校関係者評価並びに第三者評価の実施体制を整備し評価を実施している。今後は情報公開ガイドラインに基づく公開準備を進め、自己評価の公表と併せ学校関係者評価並びに第三者評価の公表を実施してほしい。

基準10 社会貢献・地域貢献**評価（平均） 3.7**

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 社会貢献・地域貢献については様々な制約の中で最大限に実施していると思う。
- 当校は歴史があり、その地域での社会貢献は果たされていると感じる。
- 大田区内の活動を活発化し、東京衛生学園の名前と大田区が結びつくような取組みをして頂きたい。例えば「くらし健康あんしんネットおおた」に、当校の中医学研究所で取り組んでいる鍼灸による認知症治療などが参加すると、とても良いコラボレーションになると思う。また、当校には看護学科やリハビリテーション学科もあるので、地域の高齢者含め大田区への社会貢献度は高いと思われる。是非具体的な取組みを検討してほしい。
- 教職員の社会貢献や社地域貢献を人事評価にどこまで反映できるか、難しい点が多々あると思うが検討頂きたい。

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 当校の国際交流は充実しているのですが、入学を検討している受験生や当校の外部関係者に対し、留学経験者の体験談などをホームページ等で積極的にアピールしてほしい。
- 学生時代の経験は貴重なもので、国際交流がより一層活性化することを期待する。
- 国際交流の実績を活かし、英・米・中・韓などのフィジカルセラピスト（PT）を呼んで、各国の医療状況を紹介してもらうのも良いと思う。

